

赤れんが 似合う街 舞鶴で研究会

「舞鶴赤れんがまちづくり研究会」(代表、杉岡秀紀・府立大講師)の成果報告会が24日、舞鶴市の舞鶴赤れんがパークであった。

研究会は府立大の研究者や市職員、市民や学生らで構成。この日は「参加型」の催しとして開かれ、研究会の研究協力者代表で市内の建材販

売会社長の森本隆さん(42)が廃材やガラス、コンクリートなどを成形して開発した新たな赤れんが「QBB」を使った工作体験のブースが設けられた。QBBを側面に貼り付けた森本さん手作りの売店(ミニキヨスク)も展示され、ゆるキャラ「レンガ〜」もお目見えした。

このほか、府立大の学生が赤れんがパークの倉庫群を1棟ずつ、東、西舞鶴、大浦、加佐地域に振り分け、特産品などを紹介するという「赤れんがエコミュージアム」の構想を発表。「赤れんがの町並み景観条例案」も紹介された。

エコミュージアム構想にかかわったという府立大2回生、梶健太さん(20)は「地域の人々が赤れんがの魅力を再発見し、観光業などで発信してくれればいい」と話していた。



新たな赤れんが、QBBを側面に貼った手作りの売店を示す森本隆さん(左)＝舞鶴市

かったという。府内約3500カ所以上が、調査で危険性が分かったにもかかわらず、未指定だった。

だが、広島市での土砂災

砂災害防止法を施行。調査が終わった地点は速やかに公表するよう都道府県に義務づけ、府も公表に踏み切った。すでに13都

について調査中で、夏までに調査を終えるという。同課の関正典課長は「危険性が分かれば、行政も住民も避難の具体的な話に進むこと

減の25億2127万円。地方交付税は36億9千万円で

財政状況が続くが、『宮津再生』の開花に向け、しっ

(2千万円)など。(藤崎昌彦)